

はじめに

○関西6府県市（京都府、大阪府、兵庫県、京都市、大阪市、神戸市）が共同申請を行っていた「関西イノベーション国際戦略総合特区」が、2011年12月に指定を受けた

○この「関西イノベーション国際戦略総合特区」をプラットフォームとして、停滞していた関西経済も大きく動き出そうとしている中、今回の提言を通じて微力ながら我々も「関西の活性化」の一翼を担いたい

I. 関西経済の現状と課題

○1990年以降、新たな価値を創造する**プロダクトイノベーション**が必要となったにも関わらず、高度成長期に成功した目標のあるキャッチアップ型から新しい目標・課題を自ら設定する**トップランナー型への思考の転換**がうまくなされなかったことが、長期に渡る経済低迷の大きな要因であると考え

	①高度成長期	②1990年以降
労働人口	第一次産業からの流入拡大	頭打ちのち、減少に転じる
賃金	相対的に安価・上昇	世界トップクラス・伸び悩み
国内需要	3種の神器・3Cなど旺盛	需要飽和
成長の駆動要因	生産性の上昇・輸入置換	需要創造
求められること	キャッチアップ プロセスイノベーション	トップランナー プロダクトイノベーション
政策	国を単位とした一律的な経済政策	地域を単位とした政策概念への転換

○関西はその都市の構造や規模、人口密度・集積・交流状況、多様な文化・生活様式など、経済発展の前提となる要件を備えており、**高いポテンシャルを有し、多様な人材が存在**している地域である

○この高いポテンシャルを活かすことができれば関西経済は必ず活性化すると確信に至り、今回・そのための活性化策について検討した

II. 関西における需要創造、III. 活性化策の検討

○需要が増えない要因という切り口から①必要がない、②時間がない、③お金がない、④将来に備えお金を使わないの4分類による**需要創造**の検討を行った

○我々は活性化策の検討にあたり、特定のマーケットに絞った活性化策、あるいは、時間・時刻制約など、需要創造を妨げる外部環境を見直す活性化策ではなく、関西において**新たな財やサービスをイノベーションによって自律的かつ持続的に生み出す仕組みが必要**との認識に至った

○活性化に向けて、求められるのは新たな財やサービスの自律的、かつ、持続的に創造する仕組み、すなわち「**画期的＝ブレークスルー型のプロダクトイノベーション**」の創造である

○「プロダクトイノベーション」を生み出すために必要な「①潜在ニーズに気づく」「②商品・サービスを具体化する」「③商品・サービスをエンドユーザーへ到達させる」ことのうち①と③は、**単独あるいは同じ価値観のものではなしえない**のではないかと考えた。これを打開するためには**多様な価値観の交流**、すなわち「**知の交流**」が必要であり、これこそがブレークスルー型プロダクトイノベーションの原動力となるのではないかと考えた

○主なフィールドワーク先

- ・企業内を中心とした取り組み : 住友スリーエム・富士ゼロックス・ANAグループ
大阪市ボランティア情報センター
- ・企業外の取り組み : ナレッジキャピタル・京都リサーチパーク町家スタジオ
クリエイティブラウンジMOV・Fishburners

IV. 提言内容

○「関西の活性化」に向け、各企業がイノベティブな体質へと自己変革していくためには、その原動力となる**イノベティブなコア人材が存在**することが不可欠である。そのためには、企業内外の様々な「知の交流」の場において、各企業における現状を変えたいという強い思いを持った人材同士が交わることにより、異質な価値観の融合を通じた化学反応を発生させる、そういった状況を創り出していく必要があると考える

<1. 各企業が取り組むべきこと>

○企業内外における「知の交流」の意義及びその必要性を認識し、

- ① 企業自体の活動として、企業内外における新たな「交流の場」創りを推進・協力するとともに企業外における既存の「交流の場」との連携を進めていくこと
- ②各企業に所属する個々の社員への後押しとして、活動する社員への理解や支援を深めるとともに社内で「交流の場」に関する情報の発信や活動の慫慂を行うこと

<2. 我々メンバーが取り組む「第一歩」>

○各企業がイノベティブな体質へ変革するために、その原動力となるイノベティブな人材の輩出を目的に「**Miracle Innovation Spiral KANSAI (MIS 関西)**」プログラム創設を提言する

○参加者のイノベティブな発想力の向上、および、現状からの連続的発想ではなく革新的発想への転換を促進することを目的とした1年間のプログラムを実行する

○事務局は、我々第11期関西の活性化グループメンバーが交代制で担当する

○活動の中心の場は、**ナレッジキャピタル*1**とし、「ナレッジサロン」の多様なメンバーとの交流を行う

○この取組みにより、「現状を変えたい・打破したい」という強い思い（パッション）がありイノベティブな取組みに対して自ら行動を起こすことができるいわゆる「**自燃性**」のある人材の輩出を目指す

○各企業数名程度の社員を推薦し、参加者の選定にあたっては他者との交流をきっかけに行動を起こすことが期待できる「**可燃性**」のある人材を中心とする

○その後は、新たなメンバーとの知の交流を繰り返していき、軌道にのってきた段階で、サイバー適塾OB会の下部組織として継続的な取り組みができるような工夫も検討し、より大きなスパイラルを作り出していく

*1：梅田グランフロント大阪の中核施設。2013年4月にオープン

【MIS関西の目指す姿】

